

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名	一般国道210号 浮羽バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 九州地方整備局	
起終点	自：福岡県久留米市田主丸町上原 至：福岡県うきは市浮羽町山北	延長	14.0km			
事業概要	浮羽バイパスは、福岡県久留米市～うきは市間の国道210号における交通混雑の解消や交通安全の確保、更には地域間の交流や産業振興の支援を目的とした計画された延長14kmの道路である。					
S48年度事業化	S52年度用地着手	S54年度工事着手				
全体事業費	274億円	事業進捗率	72%	供用済延長	9.2km	
計画交通量	8,400～28,200台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 4.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 101/427億円 事業費：44/330億円 維持管理費：56/97億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 409/667億円 走行時間短縮便益：333/547億円 走行費用減少便益：44/71億円 交通事故減少便益：33/49億円	基準年 平成19年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.5(交通量+10%) B/C=3.7(交通量-10%) 事業費変動：B/C=3.9(事業費+10%) B/C=4.3(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=3.9(事業期間+20%) B/C=4.5(事業期間-20%)					
事業の効果等	・円滑な未ビリティーの確保（並行する国道210号現道の渋滞損失時間の削減が見込まれる） ・国土・地域ネットワークの構築（うきは市から久留米市中心市街地へのアクセスの向上が見込まれる） 他7項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	浮羽バイパスは、交通混雑の緩和、地域交流の促進等に重要な役割を果たすことが期待されており、関係2市の首長等で構成される国道210号改良促進期成会等より早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・沿線地域では人口減少、高齢化が進行しており、地域活力の低下が懸念される。 ・沿線地域の自動車保有台数は増加傾向にあり、自動車依存が高い地域となっている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業進捗率は事業費ベースで約7割、また用地取得進捗率は約9割に達しており、5工区の残区間L=3.6kmの早期供用を目指す。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業効果を早期発現できるよう、引き続き関係機関及び地権者等と協議を進め、全線暫定供用に向けて事業を推進する。					
施設の構造や工法の変更等	事業実施にあたっては、新技術・新工法の積極的活用、建設副産物対策により、着実なコスト縮減等を図ることとしている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図	<p>The map shows the Ukiha Bypass route (L=14.0km) connecting Kurume City (久留米市) and Ukiha City (うきは市). It highlights different construction phases: '暫定2車線供用 L=0.4km' (Provisional 2-lane supply L=0.4km), '暫定2車線供用 L=7.1km' (Provisional 2-lane supply L=7.1km), and '完成2車線供用 L=1.1km' (Completed 2-lane supply L=1.1km). The map also shows existing roads like the National Route 210 (国道210号) and the Ukiha Bypass (浮羽バイパス), as well as local landmarks like the Kurume River (久留米川) and the Ukiha River (うきは川).</p>					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。